

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070801867		
法人名	有限会社 あざみ		
事業所名	グループホーム あざみ苑		
所在地	〒813-0036 福岡県福岡市東区若宮4丁目2番48号 Tel.092-663-8119		
自己評価作成日	令和04年02月22日	評価結果確定日	令和04年03月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成17年の開設以来「自分の親もここで看たい・・・そう思える介護」という理念を大切にしています。利用者も職員も大変仲が良く、家族の様な雰囲気なので利用者は生活しやすく、職員は働きやすく第二の我が家の様なグループホームあざみ苑です。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 Tel.093-582-0294		
訪問調査日	令和04年03月10日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「あざみ苑」は、福岡市東区の生活利便に富んだ地域の中にある定員18名の地域密着型グループホームである。コロナ対策以前は、保育園や地域の子ども会、小学校との交流を重ね、「認知症キッズサポーター養成講座」を開催する等、認知症の啓発活動に積極的に取り組んできた。協力医療機関医師と看護師、介護職員が連携し、24時間安心の医療体制が整い、看取りも行っている。利用者の嗜好を聴きながら、職員が交代で作る美味しい料理を提供し、手作りのおやつや、愛情のこもった豪華な行事食は利用者の大きな楽しみである。経験の長い職員が定着し、グループホームでは対応が厳しい利用者の受け入れにも、職員が思いを一つに挑戦している。利用者本人にとって何が最善かを常に話し合いながら、「自分の親もここで看たい」、そう思える介護を目指して日々努力を続け、家族からも高い評価を得ている、グループホーム「あざみ苑」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自分の親もここで看たい」と思える介護を理念の一つにしており、職員全員が日々実践している。	開設時に職員全員で話し合っって作成した、7つの項目からなる理念を見やすい場所に掲示し、職員会議の中で理念を振り返り、職員一人ひとりが理念の共有に努めている。「自分の親もここで看たい」そう思えるグループホームを目指し、日々努力している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍以前は地域との交流が年間行事として定着していたが、最近はや行っていない。しかし、近隣住民の方からねぎらいのお声掛けをいただくことがしばしばで職員の励みになっている。	コロナ対策以前は、保育園、小・中学校、子ども会との交流や認知症キッズサポーター養成講座を開催する等、認知症の啓発活動に取り組んできた。日頃から地域の一員として信頼関係を築いてきたので、コロナ禍の中でも地域の方から、多くの気遣いや励ましを受けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は近隣の小学校に出向き認知症キッズサポーターの養成講座を開催していたので、コロナが落ち着いたら再開し、地域の方たちに認知症に対する理解を深めていただきたいと望んでいる		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は感染予防のため行っていないが、開催できるようになったら改めて地域の方たちに苑での取り組みについて知っていただきたい。	定期的にホームの状況や活動の報告を行い、会議の中で得られた意見や情報等をサービスの向上に活かしていく事が重要である事を認識し、参加委員を募り、定期的な運営推進会議の開催を検討している。	利用者や家族、民生委員、地域代表、地域包括支援センター職員等の参加を要請し、ホーム運営や取り組みを伝え、情報交換をしながら、地域貢献に繋がる会議の開催(年6回)を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者の数々が生活保護を受給しているため区役所のケースワーカーと密に連絡を取り合い苑での状況等を報告している。	コロナ感染症対策の中で、行政主催の研修や行事が中止となり、参加する機会はなかったが、生活保護課ともやり取りして、協力関係を築いている。管理者は、行政窓口にも、空き状況や事故等の報告を行い、疑問点や困難事例を相談する等、情報交換しながら連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は玄関の施錠はせずに人感センサーの設置で対応している。また、他施設で起きた事件のニュース等を目にすると利用者を交えて話し合ったりしている。	身体拘束委員会を設置し、職員会議や勉強会の中で身体拘束の職員研修を実施し、具体的な禁止行為について事例を挙げて話し合い、言葉や薬の抑制も含めた身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に関しては職員全員が常に意識しながら業務に取り組んでおり、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の数々が成年後見人制度を利用していたことがあり、職員も身近に感じている。また、必要に応じて制度を活用できるよう過去のつながりを大切にしている。	日常生活自立支援事業や成年後見制度に関する資料やパンフレットを用意し、利用者や家族から相談があれば、制度の内容や申請方法などを説明し、利用者の権利や財産が不利益を被らないように支援している。以前、制度を活用していた利用者がいた為、後見人とのやり取りを通して、制度についての理解を深めることができた。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に至るまでの見学の時点から丁寧に説明し、また利用者や家族の状況もなるべく詳しく聞き取りしている。疑問点や不安なことはその都度お尋ねくださいとお声掛けしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の意見や要望があればすぐに職員間で話し合っ運営に反映できるものはすぐに取り組みようになっている。	日常生活の中で、職員は利用者の意見や要望を聴き取り、職員間で共有し実現に向けて取り組んでいる。電話等で家族の意見や要望、心配事等を聴き取り、ホーム運営や介護サービスに反映させている。担当職員から利用者の近況報告の手紙と「あざみだより」を毎月送付し、家族の安心に繋げている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や施設長は職員がいつでも意見や提案を話せる雰囲気作りに努めており、可能な限り対応し運営に反映させている。	新型コロナウイルス対策の為、全員参加での会議は控えているが、日々、業務の中で話し合い、いろいろな事は解決できている。また、申し送りノートを活用して職員間で情報を共有し、利用者一人ひとりに合わせた介護サービスに取り組んでいる。苑長は、職員から出された意見や要望、心配事等に速やかに対応し、ホーム運営や業務に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は常に現場の勤務状況等を把握しており職員個々の事情等に応じて働きやすい環境作りに努めている		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用に当たっては年齢や性別等関係なく採用しており、採用した後も職員の個々の事情に応じて勤務体制を整えるなど働きやすい職場づくりに努めている。	職員の募集は、年齢や性別、資格等の制限はなく、人柄を優先し、採用後は研修や現場での実学に取り組む、介護の知識と技術の習得を目指している。職員を大切にする苑長の考えの下、子育て中の職員への配慮等、職員一人ひとりの事情を汲んだ勤務体制を整え、働きやすい環境の中、職員は定着している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者の人権を尊重することは当然だが、それによって職員の人権はどうなのかと考えさせられる場面が多く、これからも知識を深める様努める	コロナ禍の中で外部研修受講の機会はなかったが、利用者の人権を尊重する介護サービスについて職員間で話し合い、言葉遣いや対応に注意し、利用者がホームの中で安心して暮らせる支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の個性を大切にしながら業務に取り組めるよう配慮している。また、職員同士が苦手なところを補い合う光景をよく見かける。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前は行き来があったが現在は電話等で情報交換しサービスの質の向上に努めている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居してすぐは本人から不安な事や要望等、とことん話を聞いて今後のケアの方法や本人の生活について真剣に考え対応している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居は本人はもちろんだが家族の為にもなると考えているので、じっくり話を聞いてできる限り要望に応えられるよう努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者本位に考え、必要であれば外部のサービスも家族に相談の上導入している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の残存能力を見極めて、出来ることはして頂き本人が自分の存在価値を見出せるよう支援している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	内科以外の他科受診はご家族にお願いし、情報共有しているが、現在は面会すらままならないので、苑だよりにて状況をお知らせしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人宛の電話や手紙等は積極的に受け入れ、入居前の関係が途切れることなく続く様支援している。	職員は利用者の馴染みの関係を把握し、行きつけの理・美容院への同行や、家族の協力を得ての病院受診等、利用者の馴染みの関係継続に取り組んでいたが、コロナ禍で、現在は外出や面会を制限している。電話や手紙等の取り次ぎを行い、これまで築いてきた関係を大切にしている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が自然と支え合って生活している姿を目にすることもあれば、いざこざになりそうな時もあり、職員が様子を見ながらトラブルを防いでいる。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	季節ごとのお手紙は欠かすことなく続けており、何年も前に退居された御家族から今も果物や様々な物が届いたり、ありがたい関係が続いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護度が上がり意思疎通ができない利用者もいるが今までの暮らしぶりから想像し、本人にとってより良いであろうという方法を試行錯誤している。	ホームでの暮らしの中で、職員は利用者の思いや意向を把握し、職員間で情報を共有して実践に繋げている。意向表出が難しい利用者については、家族と相談し、職員間で話し合い、利用者の様子を観察して思いを汲み取る努力をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の本人の様子はできる限り詳しく情報を集めるようにしており、職員間で共有しサービスに繋げている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日に日に変化する高齢者の心身状態を職員が鋭い観察力で把握しており、状況を伝えられない利用者も無理なく一日が過ごせるよう支援している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	何よりも本人本位で考えており、家族の希望でも本人にとってどうかと思うような事であれば、家族としっかり話し合い、お互いが納得いくような方向性を決めている。	担当職員やケアマネジャーは、利用者や家族の希望を聞き取り、カンファレンスで職員の意見や気づきを出し合って話し合い、利用者本位の介護計画を3ヶ月から6ヶ月毎に作成している。利用者の状態に変化があれば、家族や主治医と話し合い、その都度見直している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々変化する利用者の状態に応じてケアの方法も日々変化しているので、申し送りノートをフルに活用しながら全職員が情報を共有できる様努めている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のその時のニーズに合わせて、いつでも柔軟に対応している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会に入っており、回ってくる回覧板を通して地域の情報を得られるので、早く地域行事が通常通り開催できることを願っている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携クリニックによる月2回の訪問診療と週1回の訪問看護、訪問歯科により健康管理している。検査等で異常があれば家族に報告し専門医受診か様子観察か協議している。	入居時に、利用者や家族の希望を聞いて主治医を決定している。月2回の協力医療機関の往診と週1回の訪問看護師との連携で、24時間安心の医療体制が整っている。現在は、利用者全員がホーム提携医を主治医としている。他科受診については、家族と協力しながら受診している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の変化は申し送りノートにて職員間で情報共有し、医療面での変化は必要に応じて提携クリニックに報告し指示を仰いでいる。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合は病院関係者やご家族と連絡を取り合い、早期退院を希望していることを伝えている。退院後の受け入れの際は病院関係者から状態を詳しく聞き受け入れ態勢を整えている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご家族に看取りについての説明をし、入居後「その時」が近くなったら改めてここで出来ること、出来ないこと、提携クリニックが出来ること、出来ないことを伝え、想定される細かい事まで説明し理解を得た上で看取りに取り組んでいる	契約時に、重度化や終末期に向けた方針について利用者や家族に説明し承諾を得ている。利用者の重度化が進むと、家族や主治医と常に連絡を取りながら今後の方針を確認し、利用者が安心して最期まで過ごせる支援体制を整えている。これまでに10名近くの看取り支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応マニュアルをいつでも見れる所に保管しいざという時も冷静に判断できる様日ごろから話し合っている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災についての避難訓練は近隣の事業所も巻き込んで年に3回実施しており、協力体制は整っている。災害に関する避難訓練は今後行う予定である。	地域の協力を得て、夜間想定避難訓練を年2回実施している。通報装置や消火器の使い方、避難経路、非常口、避難場所の確認を行い、利用者が安全に避難出来るように取り組んでいる。また、災害時に備え、非常食や飲料水の備蓄を準備している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日ごろから利用者に対しての言葉遣いや声掛けの仕方は職員同士で注意し合い、意識して対応している。	利用者のプライバシーを守る介護について職員会議の中で話し合い、利用者一人ひとりの個性や生活習慣に配慮し、言葉遣いに注意して、利用者のプライドや羞恥心を大切にしたい介護サービスに取り組んでいる。また、利用者の個人情報の取り扱いや職員の守秘義務についても、職員間で話し合い、情報漏洩防止に取り組んでいる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いが伝えられる利用者には積極的に希望を聞いたりしているが、出来ない方に関してはその方の今までの言動等を思い返しながより良いと思われる方法を試行錯誤している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者それぞれのリズムを大切に、その方らしく生き生きと過ごせるよう配慮している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	意思決定ができる利用者にはその日着たいものを選んでもらっているし、身だしなみには常に気を配り快適に過ごせるよう支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嚥下機能や認知機能に応じて臨機応変に食事形態の変更を行い対応している。また、ミキサー食やソフト食でも目で見ても楽しめる様彩にも気を配っている。	状態に合わせた食事形態で提供し、ミキサー食やソフト食でも目で見ても楽しめるよう細かなところまで配慮している。好みを聞いてユニット毎に献立を考え、職員が交代で作る美味しい料理を、利用者と職員が談笑しながら一緒に食べるグループホームの特徴の家庭的な食事の時間である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量と水分摂取量のチェックは毎回記録しており、利用者によってとろみ剤を使用したり、ゼリーを作って安全に水分摂取出来るよう支援している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは毎食後必ず行い、週1回の歯科の訪問診療で治療や嚥下マッサージをしてもらい口腔状態を良好に保っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄が出来る利用者にはその方に応じた時間ごとの誘導で排泄の失敗が少なくなるよう支援している。	重度化してもトイレで排泄する事を基本とし、職員は、利用者の排泄パターンを把握し、早めの声掛けや誘導を行い、利用者の負担をなるべく減らせるように支援している。また、夜間は睡眠を重視しながら、センサーを設置して誘導する等、一人ひとりの状態に柔軟に対応している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食事の提供や水分摂取量の管理に努め自然な排便を促しているが、便秘になってしまったら提携クリニック指示のもとお薬で対応している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の身体状況に合わせて、通常の入浴、清拭、ベッド上での洗髪等臨機応変に対応している。	入浴は、利用者の希望や体調に配慮して、その方の身体状況に合った方法で柔軟に対応している。香りの良い入浴剤を入れる等、入浴が楽しめるように工夫しながら支援している。入浴を拒む利用者には、時間を変更したり、職員が交代して声掛けする等して、無理強いのない支援を行っている。入浴は利用者と職員が一对一でゆっくり会話が出来るコミュニケーションの機会でもある。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個々の身体状況を把握し、その方に合わせた休息が取れる様配慮している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者1人1人の服薬内容は全職員が把握しており内容が変わった際はしっかり申し送りし全職員が周知できる様努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の能力に合わせた日々の楽しみ方を支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気軽に外出できないご時世なので、コロナが収まったらお弁当を持ってお出かけしましょうねと近い未来の話をして利用者と盛り上がっている。	コロナ対策以前は、手作り弁当を持参して花見やドライブ、近所のお店への買い物、家族と一緒に外出に出かける等、外出の支援に取り組んできたが、現在、コロナ禍の中で外出を自粛している為、玄関先に出て花や景色を眺めることで、気分転換を図っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者同士のトラブルを防ぐためにお金の所持はお断りしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙は特に制限等は設けておらず、電話は頻度にもよるが希望されれば支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の温度、湿度は常に管理しており、空気清浄機の設置で清潔な空間になっている。また、匂いに関しては特に気を使っており、常に快適な空間になるよう努めている。	季節の生花を飾り、利用者の似顔絵や笑顔の写真、小物を飾り、生活感や季節感を大切に温かみのある環境である。また、清掃に力を入れて取り組み、臭いや採光、音・温度や湿度に注意して、利用者が快適に暮らせる生活空間を整えている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の会話やいたわりあう姿は微笑ましく、職員もほっこりさせられる。また、居室ではなく共用空間で一人になりたい雰囲気の利用者には声をかけずそっと見守っている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に新しく買いそろえるのではなく使い慣れたものを持ち込むようにご家族にお願いしている。また、長時間居室で過ごされる方は、空間が安全で快適になるよう加湿器を置く等して工夫している。	利用者が使い慣れた身の回りの物や仏壇等、大切な物を家族の協力で持ち込んでもらい、生活環境が急変しないように注意して、本人が安心して過ごせるよう工夫している。また、こまめに換気や掃除を行い、利用者が気持ちよく過ごせる居心地の良い居室である。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室がわからなくなる方は目印になるものをドアに取り付けたりして職員がいなくても居室に戻れる工夫をしている。		